



赤松宗旦著『利根川図志』より

房総・旅案内

～近世・近代 千葉の旅～

江戸（東京）に近く、温暖な気候と豊かな自然に恵まれた千葉県は、古くから手軽な観光地として多くの人々に親しまれてきました。当館所蔵の近世から昭和戦前までに発行された旅行案内書を中心に、少し昔の房総の旅へご案内します。

目次

房総の旅行案内書一覧(江戸～昭和戦前期)

折込おまけ(その1) 街道・地図でたどる房総の旅

折込おまけ(その2) 紀行文でたどる房総の旅

房総の旅行案内書一覧(江戸～昭和戦前期)

千葉県立中央図書館所蔵

当館所蔵の近世から近代にかけての房総の旅行案内書を発行年代順に並べました。

◎印の資料は、千葉県立図書館ホームページ「菜の花ライブラリー」で、画像を公開しています。こちらもあわせてご覧ください。

<http://www.library.pref.chiba.lg.jp/nanohana/index.html>

江戸

発行年	書名(請求記号)	著者・編者 出版者
文化 10	1813 かつしかずしたぐりぶね 勝鹿圖志手繰舟 (C2932/SU96/1) ◎	行徳金堤編 影印・翻刻あり(崙書房 1980)
[文政 10]	1827 房総ひざ久利毛(方言修行金草鞋) (C95/I36/1) ◎ <small>むだしゅぎょうかねのわらじ</small>	[十返舎一九著 歌川國兼画]
	小湊参詣の道中案内の絵草紙。市川行徳から内房、鹿野山、小湊誕生寺、茂原、市原を廻る旅を滑稽味あふれる筆致で描いています。 翻刻版『十返舎一九の房総道中記』(鶴岡節雄校注 千秋社 1979)は、注と解題つきで作品の魅力をより深く味わうことができます。 十返舎一九には、下総から始まり香取鹿島、日光を廻った紀行文「南総紀行たびすずり旅眼石」(『膝栗毛文芸集成』1巻収録 ゆまに書房 2010)もあります。	
天保 4	1833 鹿嶋志 3巻 下 (C17/H81/1) ◎	平時鄰著 河内屋太助
天保 7	1836 関宿土産 (C232SE/N53/1) ◎	成石友儀編 [守静堂]
天保 9	1838 [安房めぐり] (C2911/YO72/1) ◎	[幼々軒著] 須原屋佐助

発行年	書名(請求記号)	著者・編者 出版者
[弘化3序]	あづまめぐり 吾嬬免具理 下総国の部 (C293/M81/1)◎	[宮負定雄記]
	下総国の名所旧跡について書かれた地誌。同じ著者の弘化4(1847)年の序がある挿絵つきの『下総名勝図絵』(国書刊行会 1990 編者の川名登氏の解説・総索引付)と前半はほぼ同じ内容です。 当初関東全域を対象として『吾嬬めぐり』を編さんしようとしたが、結局下総国以外の部は書かれなかったようです。 宮負定雄は香取郡松沢村(現旭市)の名主で、平田篤胤門下の国学者です。	
安政2序	利根川圖志 (C293/A31/1)◎	赤松宗旦義知著 葛飾北齋画 須原屋書店
	利根川流域の歴史・風俗・動植物などについて紹介する民俗地誌。 柳田國男校訂・覆刻(岩波書店 1978)、影印・口訳(崙書房 1978・1982)、あびこ版(我孫子市教育委員会 1990)など関連本も多数あります。	
安政5	成田参詣記 (C18/N34/1)◎	中路定俊著
	江戸から成田山への参詣の道案内。全5巻のうち、1巻～4巻は道中の江戸から市川、中山、船橋、佐倉、酒々井などの記述に当てられ、挿絵入りで当時の様子がよく書かれています。 翻刻『成田名所図会 成田参詣記』(有峰書店 1973)、『「成田参詣記」を歩く』(川田 寿/著 崙書房出版 2001)なども出版されています。	

もしも、
ちとおたづね申したい
ことがござります



十返舎一九著
『房総ひざ久利毛』より

明治

発行年	書名(請求記号)	著者・編者 出版者
明治13	[成田山案内] (C18/U14/1)◎	内田安平編 清田廣太郎
明治21	成田山独案内 上 (C188/D83/1-1)	土井貞次著
明治23	成田土産名所図繪 (C293/N52/2)◎	福田熊次郎
明治31	日本名勝地誌 第2編 東海道之部 (C29/N98/1)	野崎左文著 博文館
明治31	香取名所圖會 (C2934/I76/1)◎	[石倉 重繼著] 東陽堂
明治33	総水房山 房総名勝誌 (C29/I22/1)	杉乃舎主人編 五十嵐重郎
明治34	房総鉄道線路案内 一名避暑の菜 (C29/B66/1)	房総鉄道株式会社編述 房総鉄道
明治34	安房名勝地誌 (C2911/SE43/1)	関屋為性・鳥海金堤編 鳥海書店
明治36	成田山名所図會 (C18/I76/1)	石倉重繼著 博文館
明治36	成田鉄道名勝誌 (C293/N52/1)	東陽堂支店
明治38	きみさらず 君不去 (C2921K/W46/1)	渡辺菊次郎著 多田屋書店(発売)
明治42	かとりかしま (C2934/I89/1)	伊藤泰歳著 正文堂書店
明治43	関東の山水 (C956/O61/1)	大町桂月著 博文館

発行年		書名(請求記号)	著者・編者 出版者
明治 44	1911	千葉街案内 (C2931C/C42/6)	古川国三郎編 多田屋書店
明治 44 緒言	1911	香取郡名勝案内 (C2934/KA86)	[千葉縣香取郡教育會編]千葉縣香取郡教育會
明治 44	1911	鹿野山 (C2921S/KU93/1)	楠純隆著 多田屋支店
明治 45	1912	鉄道沿線案内 (C2909/TO14/1)	東部鉄道管理局営業課
明治 45	1912	房州みやげ (C2911/SU57/1)	鷺見剛亮著 東京堂(発売)

大正

発行年		書名(請求記号)	著者・編者 出版者
大正 2	1913	鉄道沿線遊覧地案内(C2909/TE88/1)	鉄道院
大正 3 序	1914	名家紀行総水房山 (C29/TO33/1)	鴫田東皐編 [房総研究会]
大正 3	1914	房総みやげ (C2909/B66)	千葉縣醫師會編 能勢鼎三
大正 3	1914	千葉縣案内 (C2909/C42)	千葉縣編 能勢鼎三
大正 3	1914	東葛飾郡案内記(C2932/KA51/1)	神田未緑著 川奈部書店
大正 4	1915	安房漫遊案内 増訂(C2911/MA77/1)	松田屋兄弟書房
[大正 6]	1917	房州見物 (C2911/I85/1)	磯谷鴨海著 多田屋書店
大正 6	1917	木更津案内 (C2921K/KI55/1)	木更津商工会編 木更津商工会
大正 7	1918	利根川勝地案内 (C2934/I89/2)	伊藤省三編 伊藤省三
大正 8	1919	郊外探勝日がへりの旅 (C2909/MA79/1)	松川二郎著 東文堂
大正 10	1921	鉄道旅行案内 (KY291/TE86)	鉄道省 博文館
大正 11	1922	夏の房総 (C2909/N84)	西村三樹著 川上隆
大正 12	1923	東京近郊一日の行楽「房州行き」 (KY915/TA98)	田山花袋著 博文館
大正 13	1924	復興の房州 (C2911/SH86/1)	白鳥秋畝著 千葉石版印刷所
		前年の関東大震災で、大きな被害を受けた安房地方の復興がなったことを、郡民をあげて世にアピールし、来訪をすすめる観光案内書。震災被害の様子も描かれています。	
大正 13	1924	房州鏡が浦案内 (C2911T/N23/1)	安房北条商業倶楽部
大正 13	1924	上総一宮名所誌 (C2924I/H48/1)	林寿祐著 林寿祐
大正 14	1925	房州めぐり (C2911/A97/1)	安房振興会
大正 14	1925	最新東金案内 (C2925T/O26/1)	小倉徳太郎著 多田屋本店(発売)
大正 15	1926	水郷巡り (C2909/MO86/1)	本宮庸三著 三香書院
大正 15	1926	南総乃市原 (C2922/I13/1)	千葉縣市原郡役所編 千葉縣市原郡役所

昭和戦前期

発行年	書名(請求記号)	著者・編者 出版者
昭和 2	1927 小湊の柴折り (C2911K/KO64/1)	川上勇雄編 思泉房
昭和 2	1927 上総興津案内 (C2923O/KA97/1)	千葉県産業社
昭和 3	1928 総房めぐり (C2909/KA94)	川上勇雄著 関口光司
昭和 3	1928 湖海静游記 一名常総遊記 (C293/KA99/1)	茅原廉太郎著 内観社
昭和 4 序	1929 房総のしをり (C29/C42C/1)	千葉車掌所編 千葉車掌所
昭和 4	1929 富津案内 (C2921F/F97/1)	千葉県君津郡富津町役場編輯 富津町役場
昭和 5	1930 成田みやげ (C2933N/T32/1)	高原正高著 在田荘
昭和 5	1930 東京湾航路遊覧案内 (C2909/TO49/1)	戸丸 暁鐘著 東京湾航路遊覧案内発行所
[昭和 5]	1930 長生郡案内 (C2924/SA63/1)	産業組合長生郡部会
昭和 6	1931 房総の観光 (C29/C42K/1)	千葉観光社編輯 千葉観光社
昭和 6	1931 水郷の魅惑 (C2935/I45/1)	今野白洋編 文港堂書店
昭和 6	1931 木更津と南総の山水 (C2921/C42/1)	千葉タイムス社編輯 千葉タイムス社
昭和 6	1931 葛飾町案内 (C2932F/KA88/1)	葛飾町案内刊行会編著 葛飾町案内刊行会
昭和 7	1932 海光の千葉県 (C2902/Y86/1)	房総観光協会
昭和 7	1932 京成から水郷へ勝地漫画 (C2909/KI39/1)	香雨画 菅田浜次郎編 勝地漫画刊行会
昭和 7	1932 南総の山水 (C2921/N48)	千葉タイムス社編 千葉タイムス社
[昭和 7]	1932 遊房総記 (C95/O67/1)	小野正端撰 [製作者不明]
昭和 7	1932 東京から一、二泊の気まゝな旅 (KY291/MI96)	水島芳静著 日本遊覧案内刊行会
昭和 8	1933 文壇人の観たる房総 (C90/C42K/1)	副会長・岡尊信著 房総観光協会
昭和 9	1934 房総と水郷 (C29/TE86/1)	鉄道省著 実業之日本社
昭和 11	1936 千葉県の土産品 (C688/SH96/3) 旅といえばお土産がつきもの。羊羹、煎餅から缶詰、佃煮、貝細工、木・竹製品に至るまで、バラエティ豊かな当時の千葉の土産品を市町村ごとに紹介しています。海苔や落花生、枇杷など、今もおなじみの品が並んでいます。	千葉県商工水産課
昭和 12	1937 三石観音と湯ヶ滝鉱泉 (C186/TA82/1)	田村実著 千葉県図書館
昭和 12	1937 房総・水郷・常磐地方 (C29/J24/1)	ジャパン・ツーリスト・ビューロー
昭和 16	1941 日本山岳案内10 房総の山々 筑波の山々 (C29/TE86/2)	鉄道省山岳部編 博文館

※ []内の表示は、その資料に明示されておらず、他の情報から補って記録しました。

※ 発行年が記載されていない資料については、序や緒言の日付をとって、「〇〇序」・「〇〇緒言」と記しています。

折込おまけ(その1) 街道・地図でたどる房総の旅

徒歩が基本の近世の旅。街道に関する資料や地図で当時の旅人の足取りをたどって、よりリアルに近世の旅を味わってみませんか？ 当館所蔵の主な街道関連資料や地図をご紹介します。

※()内の記号は千葉県立中央図書館の請求記号です。

〇〇街道をたどる〇〇

『千葉県歴史の道調査報告書 1~18』（千葉県教育庁文化課編 千葉県教育委員会 1987~1991）江戸時代以前の古道・運河等とそれに沿う地域に残されている歴史的遺産を、周囲の環境も含めて総合的にかつ体系的に調査した資料です。

地域ごとに参考文献が挙げられ、巻末には旧街道の道筋、街道沿いの文化財の所在を図示した地図があります。 (C682/C42/5)

各巻内容

1 多古街道	7 江戸川・利根川水運	13 大多喜街道
2 成田街道	8 江戸川・利根川水運2	14 房総往還1
3 銚子街道	9 御成街道	15 久留里道
4 水戸街道	10 多古銚子道	16 房総往還2
5 日光東往還	11 伊南房州通往還	17 佐倉道
6 木下街道・なま街道	12 伊南房州通往還2	18 海上・河川交通

『千葉県の歴史散歩』（千葉県高等学校教育研究会歴史部会編 山川出版社 2006）(C2909/126)

『古街道を往く』（千葉県広報協会 1984）(C2909/KO41/1)

『房総の街道繁盛記』（山本鉦太郎著 崙書房出版 1999）(C682/13)

『房総の歴史街道絵本』（さいとうはるき著 崙書房出版 2002）(C2909/82)

『千葉の道千年物語』（山本光正/監修 千葉日報社 2002）(C682/24)

「ちばの街道を歩こう」(千葉県環境生活部県民交流・文化課文化振興班 [インターネット資料])

<http://www.pref.chiba.lg.jp/kkbunka/b-shigen/kaidou/index.html>

〇〇地図でたしかめる〇〇

『明治前期手書彩色関東実測図』（迅速測図原図覆刻版編集委員会編集 日本地図センター 1991）明治13年から19年にかけて作られた、迅速測図の原図の覆刻版。フランス式の彩色をほどこした美しい地図です。余白には各地の代表的な建物などのスケッチも。一見の価値あります。 (2913/ME25)

『明治十三年~十九年迅速測図二万分之一 千葉県』全3巻（昭和礼文社 1977）(C29M/SA61/5) こちらは白黒。軍制がフランス式からドイツ式に変わって、地図の印象もだいぶ変わっています。

『千葉県市街鳥瞰図』（松井天山著 聚海書林 1989）(C29M/MA77/1)

昭和初期に描かれた千葉県26箇所(市街)の鳥瞰図。現在の町並みと比べながら見るのも楽しい地図です。

その他、近世の古地図類少々、県内1万分の1、2万5千分の1、5万分の1地形図なども年代ごとに取り揃えています。お気軽にお声掛けください。

折込おまけ(その2) 紀行文でたどる房総の旅

千葉を旅した人たちの目に、千葉の風景はどんな風に映っていたのでしょうか。

千葉を描いた紀行文から、全集などに収録されていて、比較的読みやすいものをいくつかご紹介します。

- ・「**廻国雑記**」(道興准后著『日本紀行文集成 3』日本図書センター 1979)(9155/N71/3)
文明 18(1486)年から10か月かけて京都から北陸、関東、奥州を遊歴したときの紀行歌文集。
千葉県内では木更津、鹿野山、清澄山、那古観音、野島崎、鋸山などの記述が見えます。中世の千葉の風景が味わえます。
- ・「**甲寅紀行**」(水戸義公〔著〕徳川圀順編『水戸義公全集中』角川書店 1970)(0815/TO36/2)
水戸徳川光圀が延宝 2(1674)年、史料探訪のため房総を経て鎌倉に赴いたときの紀行日記。4月 26日神崎から 5月 1日勝山までが千葉の旅です。
- ・「**北行日記**」(高山彦九郎〔著〕『日本庶民生活史料集成 第 3 卷』三一書房 1972)(3808/N71/3)
「北行日記」は寛政 2(1790)年 6月 から約半年間、江戸から房総、東北、北陸、京都を旅した日記。
千葉には木更津に上陸後、内房から安房に回り、外房を北上して東金、八日市場、銚子、香取等を旅しています。
- ・「**木屑録**」(夏目漱石著『名著複刻 漱石文学館25』日本近代文学館 1982)(東部 91868/ナソ 4/25)
明治 22(1889)年、若き日の夏目漱石から友人正岡子規に宛てた漢文による房総旅行記。漢文は現代人には難解ですが、現代語訳や解説書も出ています。
『夏目漱石の房総旅行「木屑録」を読む』(斎藤均著 崙書房出版 1992)(C08/F94/1-136)
『漱石の夏やすみ 房総紀行「木屑録」』(高島俊男著 朔北社 2000)(C996/外 1)
『漱石の夏休み帳 房総紀行「木屑録」』(関宏夫著 崙書房出版 2009)(C946/セヒ 1)
- ・「**かくれみの**」(正岡子規著『子規全集13』講談社 1976)(9186/MA63/13)
漱石の「木屑録」に触発され、明治 24(1891)年、子規も房総にやってきました。市川から成田、大多喜、小湊、鋸山を廻った旅日記です。
『かくれみのの街道をゆく 正岡子規の房総旅行』(関宏夫著 崙書房出版 2002)(C9136/セヒ 1)

〇〇もっと読みたい〇〇

もっと読みたい方に。房総を描いた文学作品の、作品集や案内書もたくさんあります。

- ・『房総叢書 第 4 輯 (改訂)』(改訂房総叢書刊行会 1959)(C08/KA21/1-4)
- ・『房総文学散歩 上・中・下』(鳥海宗一郎著 千秋社 1978)(C9026/TO68/1)
- ・『文学と風土 房総を旅した作家たち』(坂本哲郎著 丸善 1993)(C9026/SA32/2)
- ・『ふるさと文学館 13 千葉』(祖田浩一責任編集 ぎょうせい 1994)(C986/F94/1)
- ・「地誌・紀行文に描かれた房総(その一～その三)」(高柳和子著『千葉県地域民俗調査報告書 1～3』1994～1996)(C38/SH89/1-1,1-2, C382/6/3)
- ・『文学の旅・千葉県』(鳥海宗一郎著 竜書房 2003)(C902/10)
- ・『公開講座「文学史と房総」 1～4』(城西国際大学日本研究センター2002～2006)(C902/8/4)
- ・『房総を描いた作家たち 1～4』(中谷順子著 暁印書館 1998～2008)(C9026/4)
- ・『ふさの国 文学めぐり』(千葉県高等学校教育研究会国語部会編 富士出版印刷 2010)(C902/24)
- ・『房総の文芸探訪 安房・富津篇』(池田逸雄著 池田逸雄 2010)(C902/21)
- ・『房総文学散歩 描かれた作品と風土』(毎日新聞千葉支局編著 崙書房出版 2011)(C9026/14)

(インターネット最終アクセス:2019年8月4日)